【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成22年4月8日(2010.4.8)

【公開番号】特開2007-123014(P2007-123014A)
【公開日】平成19年5月17日(2007.5.17)
【年通号数】公開・登録公報2007-018
【出願番号】特願2005-312773(P2005-312773)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｒ　13/58　(2006.01)
Ｈ０１Ｒ　13/52　(2006.01)
Ｈ０２Ｇ　15/113　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ　13/58
Ｈ０１Ｒ　13/52　３０１Ｅ
Ｈ０２Ｇ　15/113

【手続補正書】
【提出日】平成22年2月19日(2010.2.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ケーブルの絶縁被覆層により被覆した複数本の電線同士の接続、解離を一対のコネクタにより可能とし、これらのコネクタの後方に接続端子に接続した前記電線をそれぞれ引き出し、前記電線を筒状プロテクタにより覆う場合において、前記筒状プロテクタの中央部を外側に膨出する形状とし、前記電線を前記筒状プロテクタの内壁に沿うように撓ませて配置したことを特徴とする電線接続部の保護構造。
【請求項２】
前記筒状プロテクタ内は防水構造としたことを特徴とする請求項１に記載の電線接続部の保護構造。
【請求項３】
前記筒状プロテクタの前端部と前記コネクタとの間に防水シール部材を介在し、後端部においては前記絶縁被覆層との間にゴム製のグロメットを介在したことを特徴とする請求項２に記載の電線接続部の保護構造。
【請求項４】
前記筒状プロテクタは膨出形状の頂部において前後方向に２つ割りとし、合わせ目を接合したことを特徴とする請求項１～３の何れか１つの請求項に記載の電線接続部の保護構造。
【請求項５】
前記コネクタ、筒状プロテクタの周囲に保護筒を前記絶縁被覆層に固定することにより配置し、前記ケーブルに対する応力が前記コネクタに加わらないようにしたことを特徴とする請求項１～４の何れか１つの請求項に記載の電線接続部の保護構造。